

教育目標	
豊かな心を持ち、よく遊び、健やかに伸びる子どもの育成	
年度末の最終評価	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」の中の「自立心」に注目し、保育の充実をはかってきた。しかし、幼稚園の環境やそれに伴う子どもたちの育ちに対する学校評価は伸びず、その原因の一つは子どもの『自立心』を育む援助や環境への工夫が不十分だったと考えている。次年度にはその反省を活かし、具体的にどの時期に現れるのかを分析し、そこでの適切な援助や環境構成を試行錯誤する中で、子どもの『自立心』を一層高めていきたい。 ・未就園児クラスの活動や預かり保育の充実により、幼稚園における地域の子育て支援センターとしての役割を一定果たすことができた。次年度も「健やかな子どもの育成」のために未就園児・在園児保護者の子育てへの不安や希望に寄り添っていきたい。一方で、未就園児クラスへの登録が減少傾向にあり、地域に本園の活動を周知できるよう更に工夫していきたい。 ・今年度は「架け橋プログラム」の実践初年度として、近隣の幼保こ小との連携を進めていくことができた。これまで築いてきた幼小接続の取組を基礎に、結節点としての公立幼稚園の役割を一定果たすことができた。次年度は、子どもの交流を軸に、お互いの教育・保育実践を見合い、相互理解を更に進めていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも子どもたちに寄り添い一人一人を大切にする園の姿勢は地域や保護者に十分理解されている。今後もその姿勢で子どもたちを育ててほしい。 ・なかよし会（学校運営協議会）としてもより充実した保育が行えるように協力するとともに、今後も地域と幼稚園をつなぐ支援を継続していきたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和7年8月26日	学校運営協議会（なかよし会）
最終評価	令和8年3月9日	学校運営協議会（なかよし会）

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・子どもの安全・人権を守り、自他ともに命を大切にすることの育成に努める。
- ・子どもが心を動かし、主体的に遊び、様々な気づきを得て、自ら工夫したり、他者と協働する喜びを感じられる教育・保育環境を整備する。
- ・園内及び地域の自然環境や施設、諸団体との連携・交流により、幅広く豊かな体験ができる取組を推進する。
- ・学校運営協議会、PTA、おやじの会、地域の保育園やこども園・私立幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学等の協力・参画を得て、連携を深めながら、開かれた幼稚園づくりを推進する。とりわけ、幼保こ小の連携・交流により、縦横のつながりを深め、子どもの育ちと学びをつなげる。
- ・幼稚園と家庭が子どもを真ん中においた連携・取組をすすめ、地域の子育てを支援する。預かり保育や未就園児3歳児について3年保育3歳児と同等な経験ができるように取り組む。
- ・危機管理マニュアルを常に更新し、研修や訓練を行い、非常時において適切な対応を目指す。
- ・互いの持ち味を活かし、高め合える温かい教職員組織力を築き、一人一人の資質や指導力の向上を図るとともに、ワークライフバランスのとれた働き方を目指す。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・週案の振り返りによる環境構成の見直しや日々の保育カンファレンスによる子どもの姿の見取り
- ・園内でのエピソード研修や研究保育、協議による子どもの姿の見取り
- ・保育活動充実のための ICT 活用での振り返り

アンケート

「子どもは、幼稚園の遊びや生活の中で、面白がったり、不思議がったりなどと、様々な環境、事象に心を動かしている」

「子どもは、心動かした様々な環境や事象に、自ら積極的にかかわり遊ぶことを楽しんでいる」

「子どもは、心動いた自分の思いを様々な方法で表現しようとしていたり、先生や友達の話や姿に興味をもって聞いたり見たりしている」

「子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動に興味を持って楽しんでいる」

「子どもは、幼稚園きょうだいへの親しみを感じている」

「子どもは、絵本を見たり、お話（あるいはイメージ）の世界に思いを膨らませたりすることを楽しんでいる」

「幼稚園は、子どもが心を動かし、夢中になって遊び込める環境を工夫している」

「幼稚園は、子どもが様々な素材や環境に触れ、遊べる機会を設けている」

「幼稚園は、子どもの自立心を育むための援助や環境を工夫している」

中間評価

各種指標結果

- ・週案の振り返りによる環境の再構成を積み重ね、10の姿の中でも自立心に焦点を当てた保育を工夫した。
- ・地域の竹林や稲荷山へ園外保育に複数回出かけたりして、地域の自然に親しんだ。
- ・ICTを観察に用いたり、視覚的に確認できる工夫をした。
- ・園外保育や園内で一緒に遊ぶ機会を通して、幼稚園きょうだいの温かいかわりが見られる。
- ・砂・泥・色水・泡・粘土・絵の具など様々な素材に触れる遊びを体験し、感触を楽しんだ。思いのままに楽しみ、思いを素直に表出することを今後も続けていきたい。
- ・総合遊具のほか、竹馬や一本歯下駄、プール遊びなど体を動かすことを十分に楽しむことができた。

アンケート (A:大変そう思う Bそう思う Cあまりそう思わない Dそう思わない)

様々な環境、事象に心を動かしている (A73.6% B26.4%)

様々な環境や事象に、自ら積極的にかかわり遊ぶことを楽しんでいる (A58.4% B41.6%)

自分の思いを様々な方法で表現しようとしたりしている (A65.3% B34.7%)

自然とのかかわりや飼育、栽培活動に興味を持って楽しんでいる (A70.9% B29.1%)

幼稚園きょうだいへの親しみを感じている (A54.2% B38.8% C7.0%)

絵本を見たり、お話の世界に思いを膨らませたりすることを楽しんでいる (A54.2% B43.0% C2.8%)

園は、子どもが心を動かし、夢中になって遊び込める環境を工夫している (A69.5% B26.4% C4.1%)

園は、子どもが様々な素材や環境に触れ、遊べる機会を設けている (A80.6% B19.4%)

園は、子どもの自立心を育むための援助や環境を工夫している (A58.4% B37.5% C4.1%)

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・「子どもが様々な素材や環境に触れ、遊べる機会を設けている」ことへの評価が高く、園が豊かな環境づくりに努めていることへの評価ととらえることができる。それが、「様々な環境、事象に心を動かしている」子どもの姿にもつながっている。
- ・ダンゴムシやカタツムリを飼育しどんな餌が好きか考えたりなど、小さな命に触れ、自然を身近に感じ、愛着の芽生えが見られた。
- ・毎年菊掘り等でお世話になっている地域の竹林への園外保育に保護者参画をするなど、子どもの興味を保護者と共有することで保護者にも園や地域の自然への関心が高まった。
- ・幼稚園きょうだいに対する親しみの様子には個人差が見られ、アンケート結果にも表れている。後期は行事も多いため、幼稚園きょうだいが互いに思い合えるような環境づくりを行い、保護者への発信を進めていく。
- ・1学期は、端午の節句や七夕の行事等でお話の世界にイメージを膨らませる経験をしてきたが、2学期、3学期とさらに絵本の世界や、絵画制作活動や楽しい集い、生活発表会など行事の経験で、さらに想像性や感性、表現力を養っていけるようにかかわっていききたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・子どもが夢中になって遊び込み、心を動かし、感じたり、気付いたりしたことを伝え合えるように、園の環境構成を整えたり、園外保育を計画したりしていく。
- ・様々な素材に触れて思いのまま遊んだり、思いを表現したり、イメージを膨らませたりする活動を行う。
- ・自分の力を発揮したり満足感や充実感が味わえたりできるよう、体を動かして遊ぶこと等を継続して行っていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・週案の振り返りによる環境構成の見直し
- ・日々の保育のカンファレンスによる子どもの姿の見取り
- ・園内でのエピソード研修や研究保育、協議による子どもの姿の見取り

アンケート 前期と同じ項目

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は「自立心」に着目して研究を進めているとの報告を受け、幼稚園がその年年の子どもの姿から目標を設定し、しっかり取り組んでいることが良く分かった。 ・地域の自然に親しみを感じることはとても良いし、これからも大切にしてほしい。苗屋さんへの参加や七夕の笹の提供等も継続していきたい。
---------	---

最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」の中で「自立心」に着目した週案作成を行い、それを基に日々の保育を振り返り、互いに語り合うことで、子どもの気づきがさらに深まったり広がったりできるよう、環境を再構成し改善を行った。 ・事例研修を行い子どもの内面の理解や育ちの見取りを行った。 ・地域へ歩いて出かけ自然に触れて遊ぶ園外保育を実施し、ドングリ等の自然物をたくさん見つけたり道端の草花に関心を寄せる姿が見られた。それぞれの季節その時しか味わえない自然現象を逃さないよう心掛けた。 ・園内の栽培物の葉や茎を使って遊んだり収穫物を食したりして、園内の自然環境に目を向け、関心を深める保育に取り組んだ。 <p>アンケート (A: 大変そう思う B そう思う C あまりそう思わない D そう思わない)</p> <p>様々な環境、事象に心を動かしている (A68.7% B28.0% C3.3%)</p> <p>様々な環境や事象に、自ら積極的にかかわり遊ぶことを楽しんでいる (A%56.1% B40.6% C3.3%)</p> <p>自分の思いを様々な方法で表現しようとしたりしている (A67.9% B25.5% C6.6%)</p> <p>自然とのかかわりや飼育、栽培活動に興味を持って楽しんでいる (A59.4% B37.3% C3.3%)</p> <p>幼稚園きょうだいへの親しみを感じている (A56.5% B40.2% C3.3%)</p> <p>絵本を見たり、お話の世界に思いを膨らませたりすることを楽しんでいる (A56.5% B43.5%)</p> <p>園は、子どもが心を動かし、夢中になって遊び込める環境を工夫している (A65.3% B34.7%)</p> <p>園は、子どもが様々な素材や環境に触れ、遊べる機会を設けている (A72.0% B28.0%)</p> <p>園は、子どもの自立心を育むための援助や環境を工夫している (A52.8% B37.3% C6.6% D3.3%)</p>	
--	--

自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>・今年度、深草幼稚園では園内研究主題を「心を動かし、夢中になって遊び込む保育を創る ～自立心の育ちに着目して～」と掲げて取り組んできた。後期は、幼稚園の環境、それに伴う子どもたちの育ちに対する評価どちらも前期以上に伸びず、特に子どもの『自立心』を育む援助や環境への工夫が不十分だったと反省する。後期は大きな行事等も多く、参観していただく機会も度々あった。幼稚園としても、子どもたちの自立心を育んでいく大事な機会であると捉えて保育を行ってきたが、年度末にかけ、前期以上に、保護者の方の就学、進級への期待と不安、それに対する幼稚園への願い、期待などが大きく、それに十分応えきれていない部分もあり、同時に日々の子どもの成長や育ちを願い行ってきた配慮等を細やかに伝えきれていなかった保護者との意思疎通の不十分さもあつたと真摯に受け止めている。この反省を次年度に活かし、より充実を図っていききたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園きょうだいへの親しみは、4・5歳児共に前期に比べて、学校評価は若干高くなってい
------	---

	<p>る。後期の積み重なる園外保育、行事等において、異年齢への興味や親しみが深まってきている現れと言える。また、絵本を見たり、お話の世界に思いを膨らませたりすることを楽しんでいる項目に対しても評価が若干高くなっており、3学期の生活発表会の行事を機に、絵本やお話の世界へイメージを膨らませて、個々やクラスで保育を充実していったことも関係しているのではないだろうか。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自立心」に着目した環境構成を工夫する。具体的にどの時期に現れるのかを分析し、一人一人の育ちの充実をより図っていく。 ・安心して自分のありのままを素直に出せる環境、人間関係の構築、言葉による表現・対話を行う。 ・自ら意欲をもって楽しく体を動かして遊ぶ活動内容を工夫し発信する。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反省すべきところはしっかり反省しようとする姿勢はすばらしい。今後も子どもたちのために充実した保育を作り上げてくれることを期待し、今後も支援していきたい。 ・いろんな個性のある子ども一人一人に寄り添い、たくましく育っていくようにこれからも力を貸してやってほしい。

(2) 幼保小の架け橋プログラムの推進に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横のつながりも築いていけるよう、近隣の保育園、こども園も交えた交流、連携を行う。その際、幼保こ小が無理なく継続して連携を積み重ねていける年間交流計画を立てる。また、交流後の事後協議を大事にし、そこでの意見が次の交流に反映され、柔軟かつ連続性ある活動となるよう、幼小接続実績のある幼稚園が話し合いの核となって協議を進めていく。 ・幼保こ小の子ども同士が、より個への思いを深めていけるよう年度当初に固定の小グループをつかって取り組んでいく。 ・自園の研究保育を近隣の幼保こ小に公開し、幼児期の育ちや学びの共有を図る。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の事前事後協議の実施と『10の姿』『資質・能力』などの視点での協議内容 ・研究保育の公開と協議の実施と内容 <p>アンケート</p> <p>「子どもは、小中学校（近隣の保育園・こども園）との交流を楽しんだり、親しみや憧れなどを感じている」</p> <p>「幼稚園は、小中学校（近隣の保育園・こども園）とのつながりをもてる環境を工夫している」</p>

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・架け橋プログラムを軸に、小学校や近隣の保育園、こども園との交流を進めることができた。今年度は1小3園での取組初年度で、無理なく今後も持続可能な取組にしていくことを念頭に進めた。 ・担当者や管理職での事前事後の架け橋会議を対面で行うことを申し合わせ、お互いに可能な時間を捻出して実施した。 ・学期に1回、校園長会議を開き、年間を見通した取組になるように意識した。 ・今後は、年間通じて子どもの姿をみとっていく共通の視点を挙げ、その視点をもとに子どもの姿を
--	---

<p>見つめ、交流前後の協議をしていくことを進めていきたい。</p> <p>アンケート</p> <p>子どもは小中学校等との交流を楽しんだり、親しみや憧れなどを感じている (A59.7% B34.7% C5.6%)</p> <p>幼稚園は小中学校等とのつながりをもてる環境を工夫している (A70.9% B26.4% C2.7%)</p>	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 架け橋プログラムの全面実施により、保育園やこども園が小学校とつながりたいと声をあげたことがきっかけとなり、今年度の幼保こ小の交流がスタートした。今までは個々につながっていたものが1小3園合同でつながることができた。また、事前事後の会議の定例化に努めたことで、成果や課題を共有し一体となって進めていく気運を高めることができた。 ・ 5歳児中心の交流活動だったため、5歳児の評価が高く、4歳児の評価が低かった。後期は幼保こ小の交流活動の内容やそこでの育ちを4歳児も含めて広く発信する必要がある。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>事前事後の架け橋会議、学期ごとの校園長会議、交流活動を、次年度以降も継続できるものに切り上げていく。そのために、子どもの育ちや課題、願いなどを共有し、架け橋期の取組や今後の交流の在り方を協議し連携を深め積み上げていく。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流活動の振り返り、交流の事前事後会議の協議内容 <p>アンケート 前期と同じ項目</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園と小学校のつながりを軸に、それが保育園やこども園にも広がっていることは大変嬉しい。忙しい中で大変だとは思いますが、さらに深まっていくことを期待している。

最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼保こ小の交流では、1小3園で時間をやりくりしてそれぞれの担当者と管理職が一堂に会して行う事前事後の架け橋会議を大切にすることができた。 ・ 来年度からは研究主題や目指す子ども像、育成を目指す資質・能力についての協議を深め、共通の目標に向かった取組に深めていけるようにしていく。 <p>アンケート</p> <p>子どもは小中学校等との交流を楽しんだり、親しみや憧れなどを感じている (A37.7% B55.7% C6.6%)</p> <p>幼稚園は小中学校等とのつながりをもてる環境を工夫している (A65.7% B34.3%)</p>	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学生と園児で小グループを作り、年間3回の交流活動 (5月グループ内の交流、12月秋遊び、2月小学生体験) を行い、就学・進級を控え期待感をもちながらの交流や訪問などを行った。子ども同士をつなげることを通して、1小と3園がつながることができた。 ・ 今年度は小学校へ苗を届ける活動 (深草小学校以外に就学する小学校にも親子で訪問) 以外に、園児同士のつながりを深めるために2園 (深草保育園、うづらこども園) にも苗を届ける活動を行った。自ら出向くことで意欲の向上を図ることができた。

	<p>・一方で、この交流の中で、子どもの充実感、安心感や親しみ、憧れ等が高まっていることを保護者に適切に伝えていくことが必要であることを、学校評価結果から感じている。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度設定できた幼保こ小の架け橋会議を軸に、架け橋プログラムの実践を進めていく。 ・目指す子ども像に視点を置いた交流活動の計画・事前事後の協議を重視する。 ・保育を積極的に公開し、互いの保育や教育に対する忌憚のない意見交換を進め、相互理解を深める。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保こ小の交流は就学に向けた良い準備になっていると思う。子どもたちが小学校に行くのを楽しみにできるのは、地域住民にとってもうれしいことである。是非継続・充実してほしい。 ・保育園やこども園とつながる中で、お互いの保育を知ったり、魅力を伝え合い、さらに自園の保育を魅力的なものにしてほしい。

(3) 預かり保育に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園3歳児の心身の負担、また支援を要する子どもの人数、状況に応じて、午睡や休憩ができる環境、安心で安全に遊べる環境、人員体制を毎日話し合い保障していく。 ・異年齢児一人一人が安心して過ごし、一緒に遊び、過ごすことを楽しめるような玩具の準備や厳選、一日の流れについて、担当者と担任で連絡を取り合い、随時検討、再構成していく。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育週案の振り返りによる子どもの姿の見取り ・担当者と担任との連携の振り返り <p>アンケート</p> <p>「子どもは預かり保育に安心して参加している」</p> <p>「未就園3歳児の預かり保育や8時から18時までの預かり保育は子育ての支援につながっている」</p>

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳児の午睡は保育室を中心に適した環境を模索し、昼食後一定時間の休憩時間を設け午睡を促した。夏季休業中の預かり保育では、4・5歳児も暑すぎる夏を健康に過ごすため昼食後の休憩時間を設け、午睡がしやすい環境を整えた。 ・3学年が同じ場で遊ぶため、それぞれの発達に応じた玩具やその配置の工夫を行った。 ・子どもの遊びの様子や健康面について担当者と担任を中心に連絡連携し、必要に応じて家庭にも様子を伝えた。 <p>アンケート</p> <p>安心して参加している (A82.0%、B18.0%)</p> <p>未就園3歳児の預かり保育は子育て支援につながっている (A77.8%、B22.2%)</p>
自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼食後に設けた一定時間の休憩・午睡の時間は、ある程度定着し、午睡が必要な子どもが眠れることで様子も安定してきた。 ・今年度も3歳児の参加が増えており、玩具の扱いや部屋での過ごし方への不慣れから、全体的

	<p>にやや落ち着かない様子が見られた。また支援の必要な園児の参加も増え、人手が必要な状況がある。環境を工夫したり、ボランティアを配置するなどして対応してきたが、まだまだ工夫が必要である。3歳児が4・5歳児の遊びを間近で見ることで学ぶことや、下の学年の子に上の学年の子が遊びを教える中で学ぶことも多くあり、異年齢で遊ぶ貴重な機会であるこの時間を大切にしたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートから保護者は概ね預かり保育に安心して参加している。その一方で、新たな環境に慣れることを優先に考え、まだほとんど利用していない子どももいたり、長時間幼稚園にいることに戸惑う子どももいたりする。毎日の預かりの時間を楽しみに参加できるような環境や、安心できる居心地がよい雰囲気を中心に心がけていく。また、保護者の就労等や家庭事情により毎日参加する子どもがマンネリ化しないよう、遊びの内容や場づくり、教材選びなどを工夫していきたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援の必要な園児への配慮や、4・5歳児が楽しめる玩具と3歳児が楽しめる玩具を意識した遊びの場の環境構成をする。 学校運営協議会の方に協力いただいているボール遊びや昔あそび、絵本の読み聞かせなど、子どもが楽しみにできる企画や季節に応じた遊びを今後も取り入れていく。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 週案による振り返りと発達や年齢に応じた玩具の出し方など環境構成の見直し <p>アンケート 前期と同じ項目</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 預かり保育利用が増えてきて先生たちは大変だと思うが、子育て支援に向けて頑張ってもらいたい。学校運営協議会としても、預かり保育充実のために、ボール遊びや絵本読み聞かせ等に協力したいと思う。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 玩具の出し方を工夫することで3歳児も落ち着いて遊ぶ姿が増えてきた。また、4・5歳児がつくったものを3歳児に見せたり渡したりしたことが大事に扱う気持ちにつながった。 各学年ともに、簡単なルールがある遊び(ボードゲームや将棋など)を担当者とまたは子ども同士で遊ぶようになってきた。 冬季は毛糸を使った遊びを取り入れ、いつもと違う材料を楽しんだ。 なかよし会による読み聞かせやボール遊び、昔遊びなどを3歳児への配慮を行いながら実施した。 <p>アンケート</p> <p>安心して参加している (A71.6% B25.1% C3.3%)</p> <p>未就園3歳児の預かり保育は子育て支援につながっている (A84.1% B15.9%)</p>
自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 後期にぐんと評価が上がっていることから、幼稚園生活に慣れてきた後期になると、預かり保育を利用する子どもたちも、安心して、意欲的に遊び、充実して過ごせていることがうかがえる。早朝から夕方までの預かり保育への評価も高く、子育て支援の一助となっていることを感じる。今後も、保護者の声を聞きながら、預かり保育の在り方を探っていききたい。 なかよし会による遊びの提供は預かり保育の内容を彩り、充実につながっている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育とクラス担任との連絡連携も丁寧に行い、保護者への伝達事項が抜け落ちないように心掛けたことも預かり保育の安心感につながっていると考える。今後も担当者と他の教職員との連絡連携をしっかりと行い、健康で安心安全な運営を心掛けたい。 ・支援の必要な園児が多数預かり保育を利用しており、預かり保育に入る教員の負担が大きい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な預かり保育の場をつくるため、担当者と担任との連携を密にとる。また、支援の必要な園児や3歳児の様子などに応じて担当者をフォローできる教職員体制を整える。 ・預かり保育にかかわる教員体制については検討の必要がある。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本読み聞かせは、3歳児と4・5歳児では興味を持つ絵本に違いがあることを踏まえて、絵本選びをし、グループを分けて行った。その方がお話の世界をより楽しめたと感じている。 ・ボール遊びや昔遊びは、私たちも童心に戻って一緒に遊ぶことを楽しんでいる。コマ回しなど、手先を使うことに慣れていない様子も感じられ、苦手な子は別の遊びを楽しめるようにしたのは良かったと思う。

(4) 子育ての支援に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児3歳児クラスでは、子どもの実態を共有し信頼関係づくりとなるよう、年度当初に保護者、担当者、園長で懇談する時間を設ける。 ・0～3歳児親子・2歳児親子クラスにおいて、保護者同士がつながれ、子育ての悩みを話し合える場となるよう、定期的にテーマを取り上げた座談会（トイレ・食事・同年代の友達とのかかわりなど）の場を提供する。 ・在園・未就園児保護者同士が子育ての喜びや苦労を共有し、つながる場として誕生会後に「ほっこり子育てひろば」を行う。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談開催回数と参加者 ・子育てのことを話す場の開催数と参加者数、話し合いの内容・感想

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談開催日（4月～8月） ひよこ組（週5日毎日開催）、ぷちひよこ組40回・延べ235組、たまご組27回・163組参加 ・ほっこり子育てひろば4・5・6・7月分 13人、誕生会参加保護者にて実施 日頃の子育てで意識していること、うまくいなくて悩んでいること、などを交流した。 同じ悩みを抱えていることに共感したり、自身の経験を助言したりしてつながりを深めた。 ・たまご組ぷちひよこ組「トイレのことを話そう」開催 8組親子参加
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児親子が集う場を開催する中で、保護者は子どもが安心・安全に遊ぶことができる場を求めている声が聞かれ、そのような場の必要性を感じた。 ・ほっこり子育てひろばでは、同学年だけでなく他学年の保護者とも語らうことで、先輩の助言を聞き気持ち became 楽になったり、自分の子育てを振り返ったり見直したりする様子が見られた。 ・トイレの話をする場を設けることで、自分の工夫や苦労などを話したり、他の家庭の工夫など

	<p>を聞くことができ、励みになっていた。また、幼稚園のトイレを使うことで家庭以外のトイレを経験し、排泄の自立に向かう一助となっていた。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誕生会後のほっこり子育てひろばを継続するほか、子育てのことを気軽に話せる機会をたまご組やぶちひよこ組で設けていく。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談開催回数や子育てについて話す場の開催数と参加者数、話し合いの内容・感想 (前期と同様)
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域での大人同士のつながりが希薄になっている中、子育ての不安を相談したりする場所は今後ますます必要になってくる。幼稚園がその役割を果たそうと頑張ってくれているのがありがたい。地域としても協力していきたい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談開催日 (9月～2月) <p>ひよこ組 (週5日毎日開催) 登録者数 12人 ぶちひよこ組 20+37回延べ 78+250組 たまご組 37回延べ 250組参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろば 8・9・11・12・1・2月分 24人参加 誕生会参加保護者にて実施 ・たまご組ぶちひよこ組「幼稚園ママと話そう」1回実施
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談 (未就園児クラス) にやってくる家庭は安心して子どもが遊ぶことができる場を求めている。また、クラス時間外でも就園や子の育ちについて様々な相談や質問があり、保護者の不安を聞き取り寄り添うことで、地域の子育て支援を担う役割を少しは果たせたと感じている。 ・ひよこ組では保護者間のつながりもより広く深くなり、送迎時に互いに気軽に子育てのことを話す様子が見られる。ぶちひよこ組・たまご組においても、幼稚園で出会う回数が増えるにつれ保護者同士、子ども同士がつながっていった。保護者同士が互いの子どもを認め合い、注意しあえる関係性を築いている家庭もある。 ・兄弟関係以外が少なくなっており、いかに幼稚園の子育て支援を知ってもらい足を運んでもらうか、が課題としてあげられる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の未就園児家庭の方が気軽に来園し、子育ての悩みを担当者や保護者間で話せる場を提供する。 ・広報をさらに工夫する。(深草支所はぐくみ室への情報提供の継続・ポスター掲示・InstagramやHPでのわかりやすい園紹介の発信など)
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児クラスの子どもの数が少なくなっていると聞く。地域へのポスター掲示など、できることは協力していきたい。 ・深草幼稚園の魅力をなかよし会からも発信していきたい。

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組

- ・竹林や稲荷山へ年間を通して出かけ、地域への愛着や地域の人への親しみにつながる活動内容をそのつど計画、実施していく。
- ・学校運営協議会を中心に、地域の人とかかわる機会（苗屋さん・カレーパーティー・絵本読み聞かせ・昔遊びなど）を設け、地域の方々に子どもへの願いや活動内容の意味などについて伝え、本園の教育活動への理解を促す。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・地域への園外保育（散歩を含む）や園外保育後の保育での子どもの姿の見取り
 - ・保護者や学校運営協議会を含む地域の方の意見の聞き取り
- アンケート
- 「子どもは園外保育を通して、深草地域の様々な場所や自然、人を知ったり、興味を持ったりしている」
- 「幼稚園は、子どもが深草地域を身近に感じ、親しみや愛着がもてるような環境を工夫している」

中間評価

各種指標結果

- ・「ふかふか竹林」への園外保育では、令和6年度から保護者参画を実施し地域の自然との触れ合いを園がどのように進めているのかを保護者の目で見えていただく機会を作った。
 - ・地域への園外保育では「みつけバック」を活用し、そこに見つけた自然物をバッグに入れ、帰園後にバックの中を見直すことで見つけたものや行った場所へ思いを寄せていた。
 - ・苗屋さんや七夕の活動等の行事参加や協力、園外保育の引率、預かり保育での絵本の読み聞かせやボール遊び等、地域の方が子どもたちにかかわっていただく機会をたくさん設け、子どもたちとのかかわりや園の教育活動への理解を深めた。
- アンケート：深草地域の場所や自然、人を知ったり、興味をもっている（A55.6% B44.4%）
- 地域を身近に感じ、親しみや愛着がもてる環境を工夫している（A52.8% B47.2%）

自己評価

分析（成果と課題）

- ・竹林への園外保育に保護者に参画してもらうことで、「地域のこんな豊かな自然があることを知らなかった」「幼稚園が自然や地域とのつながりを大切にしている理由が実感できた」などの意見が聞かれ、地域の自然に対する関心が深まり、園の活動に対する理解が一層進んだ。
- ・竹林への園外保育など地域を歩く中で、いろいろな気づきをすることで、子どもたちは地域を知り、自然への関心が高まったり愛着を感じたりすることができた。
- ・学校運営協議会の方を中心に地域の方とかかわる機会をたくさん設けることで、地域の方の存在が子どもたちにとってより近くなり、親しみを感じている様子がうかがえた。

分析を踏まえた取組の改善

- ・後期も稲荷山園外保育を行い季節の違いを感じる。また、ドングリ拾いなどの園外保育に出かけ、広く地域を知る機会をつくる。
- ・園外保育の活動と園内の遊びがつながることで活動が広がり、豊かな経験となるよう工夫する。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・園外保育の活動と園内の遊びや生活とのつながりの見取り
- アンケート 前期と同じ項目

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期も稲荷山への引率補助など安全面への協力を行う。 ・園行事に参加、または協力し、園児の活動にかかわる中で子どもたちの成長を肌で感じることができる。かかわりを楽しみにしている。 ・園の活動内容やそのねらいを丁寧に発信することは、園への信頼を深めていくためにも重要だと思う。これからも頑張りたい。
---------	---

最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園外保育と園内の保育のつながりを意識した保育を計画し、週案を基に振り返った。園外保育で体験したことを振り返る場や園外保育から持ち帰った自然物を遊びに用いる事ができた。 ・竹林への保護者参画を行ったことで、保護者の地域への関心を深める取組にすることができた。 <p>アンケート：</p> <p>子どもは、深草地域の場所や自然、人を知ったり、興味をもっている (A65.7% B31.0% C3.3%)</p> <p>園は、地域を身近に感じ、親しみや愛着がもてる環境を工夫している (A65.7% B27.7% C6.6%)</p>	
--	--

自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大変そう思う」の割合が、4・5歳児共に前期に比べて伸びている。これも、後期の園外保育、行事活動の充実により、子どもたち自身の深草地域への親しみや愛着を保護者の方も感じてくださっている現れだと感じている。一年間かけて、地域や地域の方とのふれあいがもてる保育内容を計画してきた成果であろう。今後も大事にしていきたい。 ・深草地域の竹林園外保育への保護者参画、家庭科授業の一環による深草中3年生との交流、京都教育大学での秋の収穫等、子どもの深草地域への愛着、関心がより高まり、地域に愛され、見守られていることを実感できる取組を進めてきた。今後も子どもへの発信、保護者への発信を続け、深草地域を大事に想える子どもを育てていきたい。 ・深草地域の自然文化の一つである稲荷山は、観光客の増加により園外保育で一層の注意が必要であるが、なかよし会のサポートにより安全に実施することができた。また、カレーパーティー等になかよし会の方をお招きすることで、地域の人に喜んでもらい、子どもたちの自己有用感や自己肯定感がより増した。
------	---

<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふかふか竹林への保護者参画は、今後も継続していく。 ・秋遊びを幼保こ小の取組にするなど、他の就学前施設の子どもたちと合同で地域の自然に親しみ交流することで、地域への愛着や地域の人への親しみをもつ仲間を増やしていく。 	
--	--

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲荷山への引率に参加したが、多くの登山者がいて、先生たちだけでは大変だと実感した。できることはこれからも協力していくので、遠慮なく声をかけてほしい。 ・2月のひなまつりの集いのお茶会など、一生で二度とできない園児もいると思う。そうした経験を地域が支えて実施できるのはうれしいことだと感じている。
---------	--

(6) 教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が一人一人の力を発揮でき、働きやすさと働きがいを感じられる円滑な園運営を行う
<p>具体的な取組</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・会議の開始・終了時刻を明確にし、事前に資料に目を通すなど、時間を意識した進行を行う。 ・ノー残業デーのポスター掲示と職朝での周知を実施する。 ・連絡アプリ活用による登園前の電話対応減少や保護者配布物印刷の一部削減、同時に保護者への発信方法の見直しを行う。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議資料の事前配布の状況と時間内での進行状況 ・ノー残業デーの周知と状況 <p>アンケート</p> <p>「幼稚園は、ホームページやInstagram、毎月のふかふか広場（おたより）などで、幼稚園教育の意義や日々の遊びの様子、子どもの育ちや学びなどをわかりやすく発信している」</p>

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議資料事前配布は概ねできており職員会議は時間内に進行できている。 ・ノー残業デーの周知をしているが、その時々保育準備状況に左右されている。 <p>アンケート HP やインスタ、アプリ配信などでわかりやすく発信している (A69.5% B30.5%)</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を意識した会議の議事進行は概ねできていた。各人に起こる諸課題も日常のコミュニケーションにより概ね共有でき対応することができた。 ・個別対応が必要な保護者が複数名おられ、時間管理が難しかった。降園後、保護者へ子どもの様子等を伝達したり、共有したりすることにかかなりの時間を要した。 ・保育後の預かり保育利用者には、毎日の降園時の伝達をするための連絡ボードが役に立っている。 ・連絡アプリの活用によりペーパーレス化が進んでいる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議時間の開始と終了時刻を明示し、時間を意識した会議の進行をするとともに、資料の事前配布は引き続き行う。 ・それぞれの勤務時間を意識し、超過勤務削減に向けた業務の精選を進めていくよう指示する。 ・個別対応が必要な保護者対策を関係各所と連携して進めていく必要がある。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間内の会議終了時刻の確認。 ・保護者対応に要した時間の確認。 <p>アンケート (前期と同じ)</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大変丁寧に保育に取り組み、子どもたちの笑顔もたくさん見られる。先生や職員の努力のためものだが、教職員も健康管理に努めてほしい。協力が必要な時は、遠慮なく声をかけてほしい。

最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議開始・終了時刻を明示することで時間を意識した会議進行となった。一方、研究活動において
--

は終了時刻がずれ込むこともあった。

・支援の必要な園児が預かり保育に多数参加しており、そこに教員がサポートに入らなければならず負担が増えている。また、全員が参加する職員会を開くのが難しかった。

アンケート HP やインスタ、アプリ配信などでわかりやすく発信している (A49.8% B50.2%)

自己評価

分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

・時間を意識した議事進行は概ねできていた。しかし、預かり保育にサポートに入る教員が必要なため、全員参加の職員会開催がしづらく、会議内容の共有が難しかった。保育について語り合う研究活動においても同様であった。日常のコミュニケーションをとる時間確保も今後の課題である。

・保育後の預かり保育利用者の降園時間が各家庭それぞれである場合には、日々の事務連絡等の伝達に連絡ボードは大変役に立っている。しかし、子どもやクラスの姿等を伝達したり、保護者と共有したりは難しい現状もある。

・連絡アプリの活用によりペーパーレス化が進んでいる。

・前期よりアンケートの数値が下がっており、これは幼稚園側のホームページ等の発信数が前期に比べて頻繁に更新できていなかったことが要因のひとつであると反省する。日々の子どもたちの姿、保育への願いや思い、成長等がより保護者に感じていただけるよう、今後一層尽力していかなければならない。

分析を踏まえた取組の改善

・伝わりやすさ、明確な伝達を目指し、アプリ活用を進める。

・預かり保育の体制を整備する。

・保育充実のための環境整備など、担任を中心に教職員の連携・協力体制を進める。

・園情報の周知に、HP やインスタ、アプリ配信等のさらなる活用を進めていく。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

・園の教員の負担軽減や働き方改革が進められるようにできることは協力したい。一方で地域も高齢化等による担い手不足もあり、私たち自身も忙しい中なので、地域も役割分担や人材育成に努めていく。

・なかよし会への連絡も連絡アプリの活用が定着してきた。引き続き、メール本文に直接日時・場所を記載するようにしてほしい。丁寧さよりも簡潔で伝わりやすい発信を心掛け業務改善につなげてほしい。